



都

MARK II



現在もテストコースでは量産試作を用いての最終仕上げが続いている。既報のスクープフォトからは、サッシュ付きドアやグリップタイプのドアハンドル、巨大なヘッドランプなどが確認できる。

内装所のデザインスタジオオ。ここに開発コード「180N」次期マークーのモックアップが置かれているとの極秘情報を入手したスクープ班は、さっそく現場へ出向いた。デビュー時期の10月を前に、いち早く現物へに限りなく近いモノに接近できるかと思うと、期待がふくらんだ。敷地入口からスタジオまでの距離はわずかなのに、いくつもの堅いガードが距離感を増幅させる。

ようやく扉の前までたどり着き、荒くなった息を整えようと、深呼吸を1回。はやる気持ちを抑えつつ、扉を開けると静まり返ったスタジオの中央にヤツはいた。

響き渡る自分の足音に緊張しながらも、モックアップへ一歩、また一歩と近づく。そして、ついに「180N」への急接近を果たした瞬間、内装が完全に組み付けられていることに気付いた。単なる外観モック

アップじゃなかったのか。

ドアハンドルに手をかけ、ノブを引くとドアがあっけなく開いた。ふと接着剤の臭いが鼻先をかすめ、いままで誰の目にも触れたことのないインパネがあらわになった。半ば理性を失ったまま、まるで自分のクルマに乗り込むかのような錯覚に陥り、運転席に腰を下ろした。

すると、どうだろう。目の前には体感したこともない優雅な雰囲気。ただよい、とても300万円弱で買える国産車のインパネとは思えないほどのオーラがにじみ出ている。インパネ中央を横一直線に貫く木目パネルはドアトリムにまで至り、センターコンソールにも同じ木目パネルがおこられていた。

スツキリとまとめられたオーディオ、自然な視線移動で確認できるナビ画面。そして整然と並んだ空調スイッチ。どれも操作しやすい形状にデザインされているだけでなく、触った感触もセルシオ顔負けの質感だ。

5 SCOOP 9

10月
発売を前に

これが新型マーク の確定インパネだ。上部に大型モニター画面が配置され、横一直線の木目パネルで質感を高めている。ちなみに、チェイサーは上半分が専用デザインとなり、下部はマーク と共用される。

マークIIに 座った

Illust.K.Yamanouchi

ベンツSクラスのインパネに
似てたりもする



った。中央に配置された大きなハザードランプスイッチも目につきやすく、万一の際に操作しやすい。視線を前に移すと、オーディオスな書体でクッキリと書かれた見やすいメーターが目飛び込んできた。これなら老若男女を問わず、どんなユーザーが運転席に座っても必要な情報が瞬時に読み取れそう。腰かけているシートはサイズもたっぷりとしたもので、柔らかすぎない座り心地が印象的だった。リクライニング、スライド、リフターが電動調整できるのが、シート横にはそれらしいボタンが設置されていた。表皮は静電気の発生を抑えた毛足の短いモケットだ。

ふと現実引き戻され、長居はしてられないことを思い出した。すばやく必要最小限のメモを取り、証拠を残さないよう、スタジオを後にした。興奮が冷めないまま、突き進んできたルートを戻るのは意外に難しかったりする。余韻を楽しんでいると、思わぬところで油断してミスをしてしまつ危険性もある。

なんとか無事にスクープをモノにした結果が、ここに掲載した確定イラストだ。これでキミも発表を前に新型マーク IIに座った気分が味わえたなら、それはスクープ班の何よりの喜びである。

インパネ中央を横一直線に貫く本木目（もしくは木目調パネル）はベンツをはじめ、最近のヨーロッパ車に見られるトレンドだ。マーク IIのインパネがベンツSクラスのそれに似た印象を持っているのも、そうした演出をうまくマネているからかな？